

平成29年度の予算書を 中学生に届けました



生徒会長の伊東琴美さん（写真中央／3年生）が菅野村長から代表で予算書を受け取りました

6月9日、飯館中学校で、村の予算書を中学生に贈呈する式が行われました。式には菅野村長が出席して「平成29年度までいな“みんなの”予算書～ただいまふるさと、新たな村づくりの挑戦」を代表生徒に手渡し、事業の内容や財源などについて解説も行いました。生徒たちは、説明を受けて、さまざまな事業の内容について質問をしたり、自分たちが「ふるさと学習」の一環で取り組むCM制作に財政支援を求めたり、熱心に、和やかに、村長と意見を交わしました。

仲間と共に楽しみました ミュージック花火2017



さまざまな種類の花火と音楽が織り成すショーは感動的。スタジアムは何度も歓声に包まれました

6月3日、福島市佐原の県営あづま球場で、「ふくしまミュージック花火2017」が開催されました。毎年この企画に協力している村では、村に帰った人、これから帰る人、避難している人などが、一緒に楽しめるイベントとなるよう、村民向け特別優待チケットを用意。約600人の村民が、1万発の花火と音楽の競演を満喫しました。また、いいたてホームでは、3次元的に映像を映し出すVR機器でこのショーを視聴する企画が行われ、入所者も同時にミュージック花火を楽しみました。

ライオンズクラブから 樹木の寄贈がありました



菅野哲会長（左から3人目）らが村役場を訪れ、寄贈する樹木の目録を、菅野村長に手渡しました

6月8日、「飯館ライオンズクラブ（菅野哲会長／草野）」の代表が村役場を訪れ、樹木の目録を贈呈しました。寄贈の樹木は2本で、飯館ライオンズクラブからオオヤマザクラ、相双地区のライオンズクラブで組織する「ゾーン」からケヤキが贈られます。菅野会長は、ライオンズクラブ国際協会の100周年を記念した寄贈であることを紹介し、「ぜひ活かしてください」とあいさつしました。2本は、共に10メートルほどの高さがあり、整備が進む飯館中学校の敷地内に、移植される予定です。

県内31番目の道の駅として 登録証が伝達されました



菅野村長(右)に登録証を伝達する松田所長。「地域間交流の拠点になることを期待します」

深谷地区で建設中の「いいたて村の道の駅までい館」が、国土交通省の「道の駅」に正式に登録され、6月5日に、村役場で、登録証伝達式が行われました。登録日は今年の4月21日で、県内では31番目の道の駅となりました。式では、菅野村長が松田和香磐城国道事務所長から登録証を受け取り、「周辺の整備も継続して進める。村らしい楽しさ、やさしさがある拠点にしたい」と抱負を語りました。「いいたて村の道の駅までい館」は、8月12日に、グランドオープンを迎える予定です。

村防犯指導隊が活動を再開 出動式を行いました



交流センター前の出動式では菅野村長が「活動が村民の安心につながる」と隊員らを激励しました

6月22日、交流センター「ふれ愛館」で、飯館村防犯指導隊（菅野敬隊長／関根・松塚）の出動式が行われました。同隊は、南相馬地区防犯指導隊に所属し、村内一円のパトロールや、防犯イベントへの協力活動を行います。隊員は、松崎幸夫南相馬警察署長から委嘱状を受け取り、出動式に臨みました。松崎署長は、「隊の活動再開に期待する。復興を治安の面から支えていく」とあいさつ。隊員らは、出動宣言を合図に、警察車両と共に、村内パトロールに出発しました。

「おかえりなさい」補助金 100件達成のセレモニー



菅野村長から目録を受け取る齋藤義彦さんは「うれしいね」とにっこり。左端は娘の千春さん

6月8日、飯館村「おかえりなさい」補助金の申請が100件に達し、役場窓口で記念のセレモニーを行いました。100件目の申請をしたのは、齋藤義彦さん・千春さん親子（草野）。菅野村長が補助金の目録と記念品を手渡しました。娘の千春さんは「以前は別々に暮らしていましたが、家族の顔を見て暮らしたくて、帰村も一緒にしました」と笑顔を見せていました。※「おかえりなさい」補助金は、避難先を退去し帰村した世帯に、引越し費用として一律20万円を補助する村の事業です。